

9月 仏壇にあげたナデシコの花 <自分の祖父母への温かい気持ち>

〇〇荘の庭先に植えたナデシコが15本咲きました。うれしかったです。早速〇〇さんの部屋にも飾りました。この頃、俺は何となくお年寄りを見てむかついていた自分が変わってきていくような気がします。道であったお年寄りに優しくなったからです。〇〇荘にいてからかな。俺のじいちゃん、ばあちゃんのいる時にこんな気持ちになれば良かったな… 仏壇にあげようと思い2本だけナデシコの花をもらい帰りました。

10月 将棋強かったです。一勝三敗でした。

今日は少々暇だったので、〇〇さんと将棋をしました。普段はぼーとした顔をしているんだけど、強かったです。一勝三敗でした。

12月 1年間を通して、みんなで…話し合った

今月の「キッサ店」はどうしようー！！ ということになりました。そのとき僕は自然に感謝の集いをしようと言いました。何となく僕自身がうんと変わってきている。今日はS子に今まで（小学校）の事を謝った。そしたらS子は「ありがとう、うれしいよ。でもさ、私のようなつらい思いをする仲間を作らないで、絶対約束してね。」俺はその言葉を聞いて恥ずかしくて恥ずかしくて仕方がなかった。涙が止まらなかった。本当に申し訳なかった。<謝ればいいというものではないけれど…これからの俺を見て欲しい。>

### 考察

6月の日記から、C男が〇〇さんとの出会いによって自分が変わってきていることを自覚し始めている。また、〇〇さんへ寄せる気持ちは、9月の日記から、祖母に寄せる想いと重なっていると考えられる。自分の祖父母に対してとっていた態度を悔いながらも一本のナデシコを仏壇に供えるまでに変容してきている。

当初、高齢者に何かしてやろうしていたC男。しかし、高齢者の思いや願いを肌で感じることを通して、人は互いに支え合って生きている存在であることに気づき、C男の大きな成長につながったと考える。

### B 関わりの中でのC男とS子の変容

①「C男君ってこんなにいいところがあるんだ…」

～係決めの話し合いから、係活動に責任を持っていった姿～

<学級全体の約束>

・どんな小さな発言にも友達の声にじっと耳をかたむけよう。

C男

・生徒会のボランティア参加から

4月 ↓

変容…老人との関係

- ・話をじっくり聞くようになった
- ・係の仕事に責任を持って果たすようになってきた。

S子

・生活記録に自分の心を表すようになってきた。

係長…「大丈夫、がんばってね。応援してくれる友達もいるよ。先生も応援するからね。」

＜ボランティアについての指導＞

- 人のために働こう。
- 特別養護老人ホームの皆さんの手足になっていこう。

C 男

1 S子が係長になるんなら俺は「どうしようかな？」でも副係長でもいいよ。

5月

他の人のために働ける人になろう。

S 子

1 私に何か役に立つことがあればできればやりたい。(折り紙とか切り絵)

「会場の係長に立候補をした。「係長」になってうれしいです。みんなが私を応援して賛成してくれたからです。」  
• C男の副係長をするという発言を聞いて驚いた様子。

自分の与えられた仕事は最後まで責任を持って。

6月

2 今日は、切り絵をつくるというので係だけとクラスに呼びかけての作業があった。  
何となくS子さんに聞くのがきまり悪い気がした…。少し勇気を出して聞いてみた。S子は「いいよ」と言ってくれた。なんか心がスーッとした。

3 「特別養護老人ホームのおじいちゃんおばあちゃんが『おーっ!!』と皆で大きな声を上げて…。うれしそうだった。「涙を流して喜んでいる人もいれば「ありがとう」「ありがとう」と言っている人もいました。  
僕はこの時、S子さんの初めて喜ぶを見たような気がしました。

2 「1回目の開店のため、春の花をいくつか切り絵にしました。先生、何人かの人が「教えて!!」というので少しずつ教えました。でも、一番うれしかったことは、C男君も来てくれたことです。」

• これをどうするの  
• ねぇ、もう少しゆっくりね。  
とても優しい言葉で聞いてくれた。

3 「たくさんの切り絵ができてきました。『ありがとう、ありがとう』とみんなにお礼を言いました。こんなに、みんなが協力してくれると思わなかったです。みんなが私を認めてくれているということを感じました。係長をさせてくれて、ありがとう先生。

②「ごめんな」「いいよ」(一時間の授業の中で)

※138P資料参照

～自分を見返し、今の自分を素直に見つめようとするC男と、C男を受け止めるS子～  
今までの経過と同和教育月間における校長講話に触発され、C男がS子に謝罪する。その1時間の授業の概要。

C男の姿	S子の姿
<p>「S子!!、あのさ。」  「俺おまえにすごいことしていたんだ。」  「今だから全部話すな。」  「お前につばをかけた。髪の毛にも背中にも、机の上にも、あれ全部俺だ!!」  「俺も。」  「俺も。」  &lt; 3人の仲間がS子の机の前に土下座をした。 &gt;  「ごめんな。」  「臭いからあっちへいけと言った。」  「座布団に画鋏を入れた。」  「ううん。そうじゃない。」  「いじめても蹴ってもおまえは泣かなかった。だから、面白かった。」</p> <p>「ごめんな。」  「ごめんな。」  「ごめんな。」  「俺を殴ってくれ!!」  「本当に殴ってくれ!!」</p> <p>「本当にごめんな。」</p> <p>「先生、俺どうなればいい。？」</p>	<p>・…。</p> <p>「なに。」</p> <p>・…</p> <p>「えっ。」</p> <p>・…</p> <p>「えっ!! それって。」</p> <p>「なに!!」 … 泣く</p> <p>・…</p> <p>「それってさ、私にくかったの？」</p> <p>「私だって泣きたいよ。大声で泣きたいよ。でもさ泣いたところで誰かが助けてくれるの?みんな口ではいいこと言ってたけれど、何もしてくれなかったよね。その時『人間ってずるい。』と思ったし、死んでやると思った。でもね母さんが『もう少しで中学校だよ』って…。母さんだって死にたかったんだから…。」</p> <p>・…。</p> <p>「もういいよ。もういいから…。私のようなつらい思いをする仲間を作らないで。私からのお願いです。2度としないでね。」</p> <p>「人間が死にたくなるって大変なことだから…。今、私はあのときの悲しかった気持ちはないから…。」  「ありがとう。みんなの気持ちが聞けたから…。」</p> <p>「先生、時間取ってくれてありがとう。」</p>
<p>これからのあなたの姿で示して欲しい。</p>	

③ その後のC男とS子の姿「おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう」  
老人ホームの方々との触れ合いを通して心が育ってきていることに気付いたC男とS子

12月の「1年間の感謝の集い」の場面から。

## C 男

- ・特別養護老人ホームにいつもより早めに行った。ランタン作り・プレゼント作りを本気でやった。プレゼントはS子の作品であった。

「俺は特別養護老人ホームのみなさんにも感謝しているけれど、やっぱり俺は、S子さんに助けられたような気がするんだけど…」と涙ぐみながら思いを述べる。

## S 子

- ・会場の飾り付けに懸命である。
- ・自分が組み立てて作った80個の箱のプレゼントが気に入ってもらえるかどか心配。でも、みんなが協力してくれたことが何よりも良かったしうれしかった。

「委員長としてアッという間の1年でした。私は…。(涙ぐみながら)こんなに私を必要としてくれた仲間と、おじいちゃんおばあちゃんがいてくれたことです。学校に行かない日が多かったけれど、特別養護老人ホームの訪問があったからです。」と感謝の言葉を述べる。

C男は、小学校の時いじめの中心人物であった。担任に反抗し、一人の女子をいじめていた。そして学級崩壊。

その中心人物のC男が、高齢者と触れ合う中で「おじいちゃん、おばあちゃんの手を握ると温かいです。イライラしている心も何となく落ち着きます。不思議だなあ。」と、学級の友にも心を開き、自分の生き方を見つめ直しよりよく生きよとする姿に変わってきている。

S子は「C男によくぶたれたし多くの男子にもいじめられた頃から、不登校が続いていて2年…」 「今、男子はすごく変わって、私を受け入れてくれるようになりました。先生、今年の桜の花の色はきれいです。」と生活記録に書いてきた。

## 6 評価

### (1) C男の姿から

C男なりに家族愛を求め続けていたに違いない。自分を丸ごと受け入れてほしいという思いが生活記録に訴えられてくるようになった。

5/14「先生は今、幸せですか。？」 5/30「生きてるとどんなことがあるんですか」 6/1「今日、俺は何のために生まれてきたんだろうって考えてました。」など、C男の思いが伝わってきた。せめてC男には、嘘のない、裸の心で対話をしようと心がけた。C男の生活記録も学期に20冊を超えた。「俺は嫌々訪問しているうちに待っていてくれるおじいちゃん・おばあちゃんの顔がいつの間にか浮かんでくるようになった。」と綴られた。そして、C男はこれまでの活動を振り返り、「自分がつらい思いをしなければ分からない人の温かさを、特別養護老人ホームのみんなから教えてもらった。」と、語った。



## (2) S子の姿から

いろんな原因が重なり、小学校の時には2年半もの間、不登校が続いた。中1の3学期、ある生徒の生活記録を基に、多くの話し合いを持ち、毎月2回、特別養護老人ホームを訪問することが決定した。この訪問をきっかけに、S子は友達より特別養護老人ホームに早く行き、荘内の清掃をしたり車椅子の介助をしたり、キッサ店の準備をしたりしてきた。しかし、気持ちが落ち着いていたわけではない。途中「私を相手にしない人がいていやだ。」とか「こんなの作っても仕方がないんじゃない？」など、周りの友達と関わりが持てないことも原因で、このような気持ちの揺れもあった。ところが、得意な「切り絵」や「貼り絵」の活動が、S子に自信を付けていき、「友達が、私を必要とすることに気付いた。」と語り、彼女の自尊感情が豊かに育つきっかけとなった。S子は、できれば将来福祉の仕事について人を助けるために働きたいと考えている。

## (3) 学級の姿から

学級の生徒たちにとっても、C男の心の成長と共にS子の姿に触れ、自分の学級が居心地の良い場所へと変わっていくことに気付いていった。学級が温かな雰囲気に入れられ、所属感が持てることは、人間関係の見返しにもつながり、互いを思いやり認め合い、支え合える学級に育つことにつながっていった。

## (4) 保護者の姿から

子どもたちの心の育ちと同時に、父母の日頃の有り様にも変化が出てきた。「おら一家にもこいのぼりがあるぞ。使ってくれや。」「竹を切るなら俺がやるか。」「この高い窓は、おらがふくわい。」と、子どもたちの清掃日やキッサ店の日に合わせて、ボランティアで参加する人数が増えてきた。「おらのボランティアは本物じゃないな。ただ通りいっぺんだ…。」「子どもたちの動きを見て恥ずかしくなった。」など保護者はそれぞれの思いを口々に話してくれた。



## 7 成果と課題

こうした子どもたちの変容から、以下の二点を(成果)として示したい。

(1) 教師は、子ども一人一人を、ゆったりとした気持ちで、ずくを出して見続けていくことが必要である。一例として、日記に表れる子どもの思いや願いを読み取り、機を逸せず、必ず評価してやるのが大切となる。お便りを活用することで、保護者を通した地域啓発にもつながる。

(2) 教師と子どもの人間関係作りを学級を作る上での基本にすえたい。それは、生徒が今何を求めているのか知るためにも、子どもが心を開いて自分を語るようになる場作りを日常的に行うことである。このような積み重ねにより、見えない生徒の内面も見えてくるのではないかと。そのためにも、どんな小さな事でも常にみんなで話し合い、体験を通して考え感じる事が出来るような手だてを講じることではないかと考える。

### 【課題】

交流活動では、子どもの成長過程をとらえ、励まし、時にはそっと支えるなど、子どもの育ちを支援していくことが特に大事と考える。その結果、最初は「してやる」という意識の子どもたちが、交流相手によって逆に励まされ、成長させられていることに気づき、共生の心が育っていくものと、本活動から示唆された。